

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

回復期リハビリテーションによる Post Intensive Care Syndrome (PICS) 回復効果に関する後ろ向きコホート研究

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2020年1月から2020年6月までの間に、昭和大学藤が丘病院救命救急センターおよび集中治療室に入室し、その後当院にてリハビリテーションを受けられた方

### 2. 研究目的・方法

救急・集中治療医学の進歩によりICUに入室される重症患者のICU死亡率や28日生存率などの短期的なアウトカムは改善しました。しかしながら、長期的視点では、ICU生存患者の運動機能障害、認知機能障害、精神障害は残存し、日常生活に苦しむ患者は多く、これらの残存する問題はICU後症候群（Post Intensive Care Syndrome: PICS）と呼ばれ、ICU退室後の生活の質に多大な影響を与えております。PICSは、集中治療を受ける患者のうち、50-70%が発症するとされております。また、敗血症患者を対象とした多国籍ランダム化比較試験では、生存患者の3分の1において6ヶ月時点で身辺動作に問題を抱えていたことが報告され、ARDS患者においても、1年後の仕事復帰率は45%であったことが報告されております。このように重症患者の多くにPICSは発症し、その障害は長期間残存することが示されており、高度急性期医療を行う急性期病院では、継続したリハビリテーションを行うために回復期リハビリテーション病院や長期療養型病院などへの転院が必要となる場合が多くなっております。そのため、PICSを伴った患者が、その後のリハビリテーションにより、どのような回復経過をたどるのか経時的に評価することは困難であり、早期から継続して行うリハビリテーションの効果は明らかになっておりません。本研究は、昭和大学藤が丘病院集中治療室および救命救急センターに入室し、その後回復期リハビリテーション病院へ転院された患者を対象とし、PICSの回復過程を後方視的に調査するために計画しました。

### 研究期間

保健医療学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、保健医療学研究科長および病院長の研究実施許可を得てから2022年3月まで

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

患者情報：性別、年齢、身長、体重、診断名、既往歴、Sequential organ failure assessment (SOFA) スコア、心臓超音波検査、血液生化学検査、使用薬剤、人工呼吸器装着期間、せん妄期間、入院期間、転帰

リハビリテーション情報：病院入院中のリハビリテーション実施時間、一日当たりのリハビリテーション実施時間

PIGSに関する情報：身体能力検査、精神機能検査、認知機能検査

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（保健医療学部理学療法学科）

研究責任者：田代 尚範

住所：〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1番1号

電話番号：045-974-2221